

安曇野スタイル×信州環境カレッジ地域講座 「地域からはじまる“希望”の未来」取組報告

1. 主旨

SDGs 採択から 10 年、ゴール達成の約束の日まで残り 5 年。懐疑的な見方や達成に否定的な意見も散見されます。しかし、そんな状況だからこそ私たちは希望をもって取り組みたいと考えます。毎年行われる安曇野スタイルは、地域の事業者が参画して作り上げるイベントです。昨年度からは、エシカル消費や自然との共存、サステナブルな地域などのキーワードを織り込んで開催しています。事業者の皆さんと SDGs の基礎を学ぶ場や、親子を対象とした映画「マイクロプラスチックストーリー」上映会を、信州環境カレッジの協働講座として開催しました。

今年度は映画『クローサー・トゥー・ホーム ローカリゼーションという希望』をいっしょに見ながら、これまで私たちが経済優先で失ってきたものを明らかにし、これからの暮らしのあり方や考え方を考えあいます。ソーシャルデザインセンターのライターである会津順子さんがインドのラダックへ行き、この作品に登場する何人かの活動家にインタビューしてこられたので、その報告会も同時に開催し、参加者とともに持続可能な地域とは？ 私たちはこれからの社会をどう作っていくか？を考える機会とします。

2. 開催日時:2025 年 11 月 2 日(日) 14:00~16:00

(映画上映は同会場にて午前中から随時行う)

3. 開催場所:安曇野市 穂高交流学習センターみらいギャラリースペース

4. 対象:一般市民

5. 参加費:無料

6. 参加団体

(1)主催:安曇野スタイルネットワーク・長野県 NPO センター・信州環境カレッジ(長野県)

(2)共催:ソーシャルデザインセンター

(3)協力:安曇野市市民活動サポートセンター

(4)後援:安曇野市、池田町、松本市、大町市、安曇野市教育委員会、池田町教育委員会、安曇野市社会福祉協議会

7. 映画上映「クローサー・トゥー・ホーム ローカリゼーションという希望」



映画はこれまで私たちが技術の発展や経済を優先してきたために、失ったり弱体化してしまった営みがもつ意味を示唆しています。流通に過剰に依存したり、効率を優先するために大量に生産し、廃棄するというサイクルを見直すこと、将来世代に何を残すのか、今をよりよく生きるために必要なことを考えることを提案しています。

8. 会津順子さんのインド・ラダック訪問報告

現地の写真を交えながら、昔から続いているお祭りや放牧など心豊かで楽しい暮らしを紹介してくださいました。また、映画「クローサー・トゥー・ホーム ローカリゼーションという希望」に込められた制作者ヘレナさんの想いを伝えてくださいました。



9. グループワーク

参加者を4つのグループに分けて映画の感想を出し合いながら、持続可能な地域とこれからの社会などについて自由に話し合いました。



10. 参加数: 20名(うち映画だけ立ち寄り2名)、ほかパネル見学4名

11. 映画と報告の感想

- (1) 資本主義のメリット・デメリットを自分の実感で経験してきたことで、これからの土地と自然に根差した生き方の授業をスタートしています。今日の映画はそれを後押ししてくれました。ありがとうございました。(50代)
- (2) レベルが高い講演会でした。(80代)
- (3) 自己肯定感の低い日本人に地域での幸せを大事にしようというのはとても難しいと思いますが、「楽しいこと」を大切にしていきたいです。(50代)
- (4) 20代の頃、ヘレナさんと辻先生の声本を読んでおり、久しぶりに原点を思い出し、心ゆさぶられました。(40代)
- (5) 一人でも意識して活動することが全体につながる。(60代)
- (6) とても良いお話を聞くことができました。ありがとうございました。(60代)
- (7) 身近なところからローカルゼーションをはじめる。さて何からどうしよう。会津さんのすばらしい言葉がたくさんあり、ありがとう。(70代)
- (8) 地域社会で人々とつながる。地域でささやかな活動で実践しています。池田町オーガニッククラブ、高瀬川を愛する会など(年代は無回答)
- (9) 会津さんの報告のお話おもしろかったです。参加者とのお話も楽しかったです。(年代は答えたくない)
- (10) 自分がやっている事が無意味ではないと思えました。(50代)
- (11) 一体自分が何をすれば良いのか、難しいなと思いました。(40代)

(12)1998年ごろオルタナティブマガジン kyotoJournal の JohnEinars さんが「リサージェンス」のサティシュと DavidLane を京都に呼んだときに知りあった者でなつかしく観に来ました。それから四半世紀、自分なりにローカリゼーションを求めてきて、この夏、安曇野に移住してきました。身土不二をつきつめて野草でつくる手作り酵素にたどりつき実践しています。野草や当地の作物で、世界を当地からふくらませていきたいと考えています。映画で語られていることを、ふつうの生活者が実践できる道を拓いていきたいと改めて感じました。ステキな企画をありがとうございました。(50代)

12.アンケート結果

(1)回収数:15

(2)満足度:「満足」12(80%)・「不満足」0・「どちらでもない」3

(3)上映会を知ったのは(複数回答)

新聞1・チラシ2・SNS3・知り合いから聞いて 7・偶然通りかかって2
その他3(安曇野スタイル、広報あづみの)

(4)この映画をご存じでしたか

知っていた1・知っていたが見たことはなかった1・知らなかった 13

(5)参加する前後の変化

変化があった 8・分からない 2・どちらでもない 2・無回答3

(6)また参加したいですか

参加したい 10・参加したくない 1・内容によって考える 3・無回答1

(7)年代

40代 2・50代5・60代3・70代2・80代1・答えたくない1・無回答1

(8)職業

会社員1・団体職員(NPO 法人)1・団体職員(NPO 以外)1・自営業4・主婦主夫3・無職4
無回答1

13.まとめ

上映した「クローサー・トゥー・ホーム ローカリゼーションという希望」は YouTube 動画でも公開されている30分ほどの映画です。今回の上映をきっかけに、より多くの方々に見ていただきたいと思いました。

インド・ラダックの報告を含め、経済成長優先で失われてきた地域文化や奪われた暮らしを振り返り、これから持続可能な社会にするためにどうすればよいのかを考える機会となり、参加者が身近で取り組んでいる自称「ささやかな活動」に自信と希望を与えられたことが今回の成果だと感じました。

以上。

編集:長野県 NPO センター 吉田喜美夫